

中標津町郷土館だより

2002年特別号Ⅰ

日付 平成14年12月1日

発行所 中標津町教育委員会

標津郡中標津町丸山2丁目22番地

電話 教育委員会(01537-3-3111)

郷土館(01537-2-2190)

オオバヤナギが確認されました!!

ネコヤナギなどでよく知られているヤナギの仲間はヤナギ属 (*Salix*)、ヤマナラシ属 (*Populus*)、オオバヤナギ属 (*Toisusu*)、ケシヨウヤナギ属 (*Chosenia*)、カミコウチヤナギ属 (*Toisochosenia*) と5つに分けられています。

これまで中標津町内では、ヤナギ属とヤマナラシ属の計21種類のヤナギがあることがわかっていたのですが、今年の夏、根室管内のヤナギについて研究している団体(代表: 栗野武夫氏)がオオバヤナギ属のオオバヤナギを初めて確認し、中標津町で見ることのできるヤナギを22種としました。

このヤナギについての詳しい内容は下のとおりです。

和名[オオバヤナギ]

学名[*Salicaceae Toisusu Toisusu urbaniana Kimura*]

【分布】

- ◆千島南部(国後島)・北海道・本州(中部から北部)

【生えている場所】

- ◆温帯地方でも比較的涼しい地域の河畔や、石の多い河原を好む。
- ◆根室管内では薫別川や忠類川の河畔の砂礫地に繁茂している。
- ◆中標津町内では俣落川流域でのみ確認されている。

【樹木の形】

- ◆一本立ちで直立し、高さ30m、直径1m以上になる。秋には葉をおとす。

【葉】

- ◆若い葉の両面に軟毛があるが、成長が進むとほとんど無毛になる。葉の縁は巻かない。
- ◆成長した葉は、日本のヤナギ類で最も大きいので「大葉柳」と呼ぶ、と多くの図書で紹介されている。



オオバヤナギの大木



オオバヤナギの葉 (原寸大)

- ◆葉の長さは16cm、幅は5cm程で、表面は濃い緑色、裏面は粉白色。
- ◆葉脈は裏面に浮き出し、わずかにやわらかい毛を残す。葉は乾燥とともに黒く変色する。

【樹皮】

- ◆新しい枝は秋から春にかけて赤褐色で光沢がある。
- ◆成木になると黒褐色になり縦に深く裂け、表面から薄く剥がれる。

【花】

- ◆花の時期は他のヤナギに比べて格段に遅く、7月に入ってから開花が始まる。
 ♂雄のつぼみは舟形で、長さ3mm・幅1mm程に淡い黄緑色。縁に短い毛がある。
 ♀雌花のつぼみはくさび形で、縁に短い毛があり、淡い黄緑色。

【類似種との対比】

- ◆バッコヤナギとエゾノバッコヤナギの葉の裏には、白毛が密生するが、オオバヤナギはほとんど無毛。
- ◆オオバヤナギとバッコヤナギの葉は良く似ているが、バッコヤナギの樹皮は小型のサンマのような大ききで縦に割れるが、オオバヤナギの樹皮は割り箸程度の大ききで割れる。

【その他】

- ◆属名 Toisusu はアイヌ語で、Toi =墓、Susu=ヤナギの幹の意味。アイヌ語が属名になっているのは植物学上はこれだけといわれている。
- ◆オオバヤナギ属は東アジアの温帯北部と亜寒帯に3種あり、日本には1種という極めて小さいグループ。
- ◆ヤナギ属は挿し木の容易なものが多いがオオバヤナギは難しい。幼苗の移植は可能。

中標津町で確認されたヤナギ一覧

ヤナギ科	ヤナギ属	オノエヤナギ (俗称:カラフトヤナギ、ナガバヤナギ)
		エゾノキヌヤナギ
		ネコヤナギ (俗称:ネコヤナギ、タニガワヤナギ、エノコロヤナギ、トウトウヤナギ)
		バッコヤナギ (俗称:ヤマネコヤナギ)
		エゾノバッコヤナギ (俗称:エゾノヤマネコヤナギ)
		タライカヤナギ
		イヌコリヤナギ
		タチヤナギ
		エゾノカワヤナギ
		エゾヤナギ
		クロヤナギ
		キツネヤナギ
		エゾノタカネヤナギ (俗称:マルバヤナギ)
		シダレヤナギ
		ウンリュウヤナギ
		コリヤナギ
		フリソデヤナギ (俗称:アカメヤナギ)
	ハコヤナギ属	エゾヤマナラシ
		ドロノキ (俗称:ドロヤナギ、ワタドロ、デロ、ワタノキ、ドロ)
		ポブラ
	ウラジロハコヤナギ (俗称:ギンドロ、ハクヨウ)	
オオバヤナギ属	オオバヤナギ	



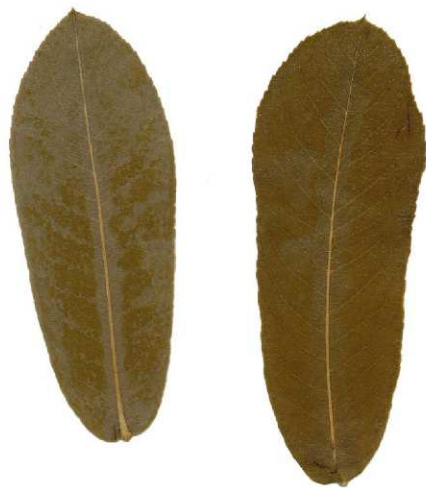
オノエヤナギ (原寸大)



キヌヤナギ (原寸大)



コリヤナギ (原寸大)



イヌコリヤナギ (原寸大)